

子どもの病気やけが

子どもは、感染症にかかったり、やけど、けが、誤飲などの事故にあったりすることも稀ではありません。いつも子どもと接している保護者が、「様子が普段と何かが違う」「どこかおかしい」と感じたときには、よく、子どもの状態を観察しましょう。心配な点がある場合には、かかりつけ医に相談しましょう。

●急に熱が出たり、下痢をしたなど、子どもの具合が悪い?を感じたら、最初に健康観察をしてみましょう

観察のポイント



- 食べる いつも通りにごはんを食べたり、赤ちゃんはおっぱいやミルクを飲んでいますか。
- 寝る 夜や昼寝の時間に、いつもと同じように眠っていますか。苦しくて眠れないといった様子はないですか。
- 遊ぶ いつも同じように遊んでいますか。機嫌がよく、活気がありますか。いつものおもちゃに興味を持てますか。
- 出す うんちやおしっこの回数、量、様子はいつもと変わりないですか。おしっこが長時間出ないようなことはないですか。

*すべてにチェックが入れば、おうちで様子をみてもいいでしょう。
心配だったり気になることがあればかかりつけ医へ!

●子ども医療電話相談

休日、夜間の子どもの症状にどのように対処したら良いのか、病院を受診した方が良いのかなど判断に迷った時は、小児科医師や看護師から、症状に応じた適切な対応の仕方や受診する病院等のアドバイスを受けられます。

小児の「急な病気」や「けが」は…

携帯電話やプッシュ回線(笠置町・
南山城村等を除く)からは
▶ ジャーブ **#8000** または 075-661-5596
(全ての回線・府内全域で利用可)

- 対象／府内に住む15歳未満の子どもや家族等
- 相談時間／午後7時～翌朝8時 ※土曜日(祝日・年末年始を除く)は午後3時から翌朝8時
小児科医・看護師の専門的対応や育児相談も可能

救急の電話相談窓口救急安心センターきょうと 24時間365日

携帯電話やプッシュ回線(笠置町・
南山城村等を除く)からは
▶ ジャーブ **#7119** または 0570-00-7119
(全ての回線・府内全域で利用可)
● 看護師等がアドバイス ● 医療機関も案内 ● 全年齢で相談可

●医療機関への受診について

呼吸が苦しそう、ぐったりしている、何度も吐く、けいれん、意識を失うような症状が見られた場合には、必ず医療機関を受診しましょう。医療機関を受診する際には、子どもの症状、その変化、時間をメモしておきましょう。また、親子健康手帳にはこれまでの重要な記録があるので、必ず持参しましょう。

記録のポイント

〈病院に行く前に、メモや写真、動画など、症状を記録したものが役立ちます。〉

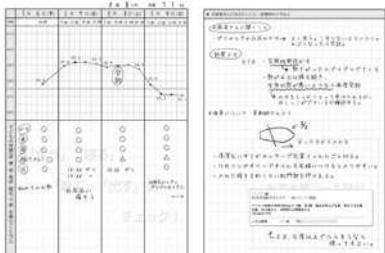
写真・動画で記録する

せきなどは動画で撮影すると、様子がわかりやすくなります。発疹や便(オムツ)などは、写真に撮っておきましょう。お薬手帳に記録することもGood! SNSのメッセージやイラスト送信機能、熱型表のアプリなども便利です。



グラフ・メモで記録する

熱の高さは医師がみやすいよう、折れ線グラフに表しでしょう。鼻水やせき、嘔吐、便、発疹などの症状は、箇条書きでメモを。既往症についても触れておくとよいでしょう。



*参考：子どもと医療(ホームページ)

お役立ちウェブサイト

●京都健康医療よろずネット

京都府の医療機関医療情報検索サイトです。

トップページの「小児科を探す」をクリックすると、府内の「今、小児科が受診できる病院」を検索することができます。事前に、電話で問い合わせの上、受診をしてください。

●(公社)日本小児科学会 「子どもの救急」ホームページ

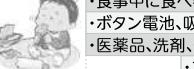
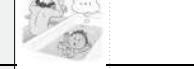
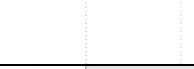


子どもの病気やけが、事故の予防、応急救手、心肺蘇生法についてWEBでご覧いただけます。

子どもの事故の予防

子どもは、運動機能などの発達とともに、いろいろなことができるようになります。遊びや活動を通してたくさんの力を身につけていきます。一方で、起きやすい事故もあり、大人がヒヤヒヤと感じることもあります。子どもの「やってみたい」という興味や探究心を大切にして、様々なことにチャレンジさせてあげられるよう、発達過程の中で、いつ頃、どの様な事故が起りやすいか知り、安全の対策をとりましょう。

●子どもの発達と起こりやすい事故

発達の目安	誕生	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月
	首がすわる			離乳食を始める		一人座り	ハイハイをする	
	足をバタバタさせる				寝返りをうつ			指で
窒息・誤飲事故	<就寝時の窒息事故> ・うつぶせで寝て、顔が柔らかい寝具に埋もれる ・掛布団、ベッド上の衣類、ぬいぐるみ、スタイルなどで窒息 ・ベッドと壁の隙間などに挟まる ・家族の身体の一部で圧迫される ・おもちゃなどの小さなもので窒息 ・ミルクの吐き戻しによる窒息							
								
転落・転倒事故	・大人用ベッドやソファからの転落 ・抱っこひも使用時の転落 ・ベビーカーからの転落	・ベビーベッドやおむすび替えの台からの転落	・椅子やテーブルからの転落	・階段からの転落				
								
主な起こりやすい事故	・チャイルドシート未使用による事故 ・車内での熱中症	・車のドアやパワーウィンドウに挟まれる事故 ・自転車関連の事故	・こども乗せ自転車での転倒 ・自転車に乗せたこどもの足が後輪に巻き込まれる					
								
水まわりの事故	・入浴時に溺れる		・浴槽へ転落し溺れる ・洗濯機、パケツや					
								
やけど		・お茶、みそ汁、カップ麺などのやけど ・暖房器具や加湿器でのやけど	・電気ケトル、ポット					
								
挟む・切る・その他の事故	・エスカレーター、エレベーターでの事故		・テーブルなどの					
								

引用：子ども家庭庁「子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック」

◎子どもの病気やけが、事故の予防WEBサイト

子どもの病気やけが、事故の予防、食べ物などのものがのどにつまつた時の応急手当、心肺蘇生法については、こちらからもご覧いただけます。

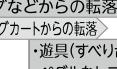
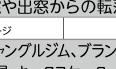
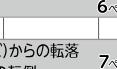
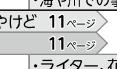
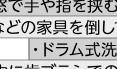
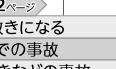
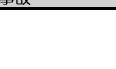
母子健康手帳
情報支援サイト



◎消費者トラブルで困った時は「消費者ホットライン」

『188』(全国共通ダイヤル)

(最寄りの消費生活相談窓口につながります。
製品や食品による事故の相談が可能です。)

10か月	11か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳
・つかまり立ち 物をつかむ	・一人歩き 走る	・階段を登り降りする その場でジャンプ 高い所へ登れる					
							
窒息							
誤飲・包装フィルム・シールなどの誤飲 息							
							
、段差での転倒	・ベランダなどからの転落 ・窓や出窓からの転落 ・ショッピングカートからの転落	・遊具(すべり台、ジャングルジム、ブランコなど)からの転落 ・ペダルなし二輪遊具、キックスケーター等での転倒					
							
まれる、スポーツ外傷	・道路などでの事故						
							
れる	・ビニールプールやプールなどの事故 ・海や川での事故・ため池、用水路、排水溝、浄化槽での事故						
							
洗面器などによる事故	・炊飯器でのやけど ・調理器具やアイロンでのやけど	・ライター、花火によるやけど					
							
家具で打撲	・カミソリ、カッター、はさみなどの刃物やおもちゃでのけが ・小さなもの鼻や耳に入れる	・キッチン付近で包丁、ナイフでのけが ・ドアや窓で手や指を挟む					
							
	・タンスなどの家具を倒して下敷きになる ・ドラム式洗濯機での事故	・歯磨き中に歯ブラシでの喉突きなどの事故 ・機械式立体駐車場での挟まれ事故					
							

食べ物や玩具など、ものがのどにつまつた時の応急手当

乳幼児は、大人が思いもよらないものを口にします。食べ物や玩具等がのどにつまると、窒息する危険があります。

周囲の人が、普段から乳幼児ののどに詰まりやすい大きさの目安（3歳児の最大口径39mm、口から喉の奥までの長さ51mm）を知り、窒息につながりやすい食べ物の注意点や玩具の取り扱いに関する注意書きをよく確認するとともに、すぐに対応できるように、応急手当について知っておくことが必要です。

口の中に指を入れて取り出そうとすると、異物がさらに奥へ進んでしまうことがあります。

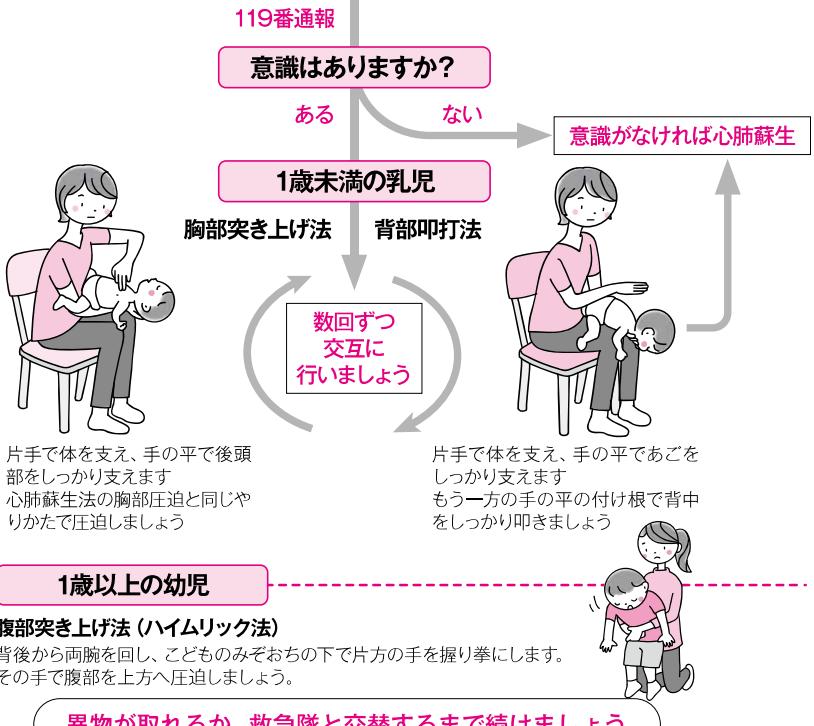
◎歯ブラシの喉つき事故についての情報

「楽しく安全に歯みがきをする習慣を身につけよう」リーフレット（日本小児歯科学会HP）



ものがのどにつまつた時の応急処置

のどに物が詰まって、声が出せない



◎監修：日本小児呼吸器学会、日本小児救急医学会

心肺蘇生法

心肺蘇生法の基本は、胸骨圧迫と人工呼吸です。胸骨圧迫だけでも、人工呼吸だけでも、何かをするその勇気がお子さんの救命につながります。

様子がおかしいと思ったら助けを呼んで、以下の心肺蘇生法の手順を開始しましょう。



◎監修：日本小児呼吸器学会、日本小児救急医学会

※消防機関等で応急処置の講習会が行われています。慣れておくと安心なので、参加してみましょう。